

**令和6年度 外国人留学生選抜 経済経営学部 小論文**  
**出題の意図と解答の傾向**

**第1問**

**【出題意図】**

本文は、ディオーン・ン・ジェ・ティン氏の『東大留学生ディオーンが見たニッポン』（岩波書店、2017年）および、庄司里紗氏の『日本における多文化共生のリアル』（タイムアウト東京、2019年）からの出題である。いずれも日本に暮らす外国人の声を題材とした文章であるが、両者の語る「郷に入っては郷に従え」という考え方の違いを的確に捉える読解力、そして、読み取った内容を自身の主張に結び付けて正確に記述する能力を問うた。

**【解答の傾向】**

問1 語句の意味

「郷に入っては郷に従え」の意味を、本文中の表現を使って説明する問題である。本文のテーマに関わるキーワードの理解と、適切な読解力を問うものである。

概ね、本文の適切な引用をもとに説明ができていた。なお、「自国の文化を尊敬しながら他国の文化を身に着け、どこまで受け入れるか自分で判断すること」は、筆者の考えの表明であるため不正解とした。

問2 正誤選択

文章A、文章Bの内容に関する選択肢から、その正誤を判定する問題形式である。本文全体の正確な理解度を問うた。

特定の選択肢に限らず、全体的に誤答が目立つ結果となった。選択肢に用いられた用語(例:「7割強」「独自性」)が、本文の内容と照らし合わせて適切なものかどうかを理解することがポイントであるが、いずれにも読み落としや不正確な理解があったようである。

問3 選択

文章Bの内容に関する選択肢から、誤ったものを選択する問題形式である。

概ね良く出来ていた。「正しくないものを選べ」という問題文もしっかり理解できているようだった。

問4 論述

文章A・文章Bの主張を比較し、その理解をもとに自身の考えを述べる論述形式である。2つの文章の内容を正しく理解する読解力、また、読み取った内容を比較しそれらを自身の主張に結びつけて記述する文章力を問うたものである。

「両者の主張を比較する」という問題文の意図が正しく理解できず、文章の内容や自身の主張のみを記述するものが多く見られた。異国での暮らしにおいて「異文化」の積極的な受容を訴える文章 A に対して、そうした考え方をやや批判的に捉えた文章 B という構成が理解できるかどうかのポイントであるが、両者の比較まで踏み込んでいない回答が多かったのは残念なところである。

## 第 2 問

### 【出題意図】

観光庁の公表する 3 つの資料に基づく出題である。データを正確に読み取る力に加え、一つ一つの数字が意味するものを本質的に理解する能力、そして、自身の考えを適切な根拠に基づいて述べる論理性や文章構成力を問うた。

### 【解答の傾向】

#### 問 1 正誤選択

3 つの資料の内容に基づく選択肢について、その正誤を判定する問題である。資料の正しい読み取りとその理解度を問うた。

概ね、選択肢の正誤判断ができていたようだった。

#### 問 2 論述

資料 2 に関して、変化率の高い 3 項目を指摘し、それぞれについてその理由を述べる論述問題である。資料の正確な読み取りに加え、「なぜそうなったのか」を近年の社会情勢を踏まえ記述することで、社会課題に対する理解力や発想力を問うた。

変化率の高い 3 項目は概ね指摘することができていた。また、それぞれの変化については、新型コロナウイルスの感染拡大とその前後のインバウンド消費の変化と関連させて述べたものが多かった。加えて、近年の日本の円安傾向や海外各国の財政事情などと絡めた考察も見られ、全体的に質の高い回答が多かった。